

□BASSARA(バサラ)の主な特徴

1. 四方実加工の置床式で、ワンタッチ脱着の「イージーワンタッチシステム」はエンドマッチがワンタッチで脱着でき、糊や釘を使用せず、ご自身で簡単にDIY感覚で施工することが出来ます。
2. 三層を交互に貼り合わせることで施工後の反りなどを飛躍的に改善することに成功しました。
3. 反りが改善される事で、幅広いフローリングの商品化が可能になり、より無垢の触感が楽しめるようになりました。
4. 目地なしのフルフラット仕上げが可能になり、アレルギーの原因とされるダニや埃だまりが激減します。(ミッドナイト・オーク・スクレイプは、V字溝です)
5. ホルムアルデヒドに対応した、建築基準法最高ランク(F☆☆☆☆)商品です。
6. 表面材が厚さ3mmの無垢材挽き板で、表面を削ってのリユースも可能な、環境にも配慮したエコロジー商品です。
7. 塗装は木材の表面を密封し息臭させるウレタン塗装と違い、木が呼吸できるUVオイル仕上げ。

□フローリング施工方法 (糊、釘を使った方法)

無垢フローリングに適した接着剤

1 液型ウレタン樹脂系接着剤 (コニシボンド KU928C 等) エポキシ樹脂系 (シックハウス症候群の原因とされるホルムアルデヒドを原料としない接着剤) 木工用ボンドは床鳴りの原因になりますので避けて下さい。

フローリング専用釘

フロア釘と呼ばれるフローリングを止めるための専用釘を使用します。長さが 38 mm 以上のものを使用して下さい。

下地

下地材に使用する大引き、根太、捨て貼り合板はすべて乾燥剤を使用して下さい。大引きは 90 角以上、根太は 45 角以上のものを使用し、根太のピッチは 300 mm 程度にします。

捨て貼り合板

12 mm 以上の耐水合板を使用します。

施工のタイミング

無垢フローリングは湿度により伸縮するので、箱を開梱し出来るだけ広げ、現場の湿度に馴染ませ、1 週間養生後に施工するのが理想的です。

仮並べ

一度仮並べをして、材料の色調や木目、寸法の割付けを確認します。一列目と最終列の中が極端に違わないように割り振りして寸法を調節します。

納まり

フローリングと壁とは膨張を考慮して中木で隠れる範囲内で 5 mm 以上の隙間をあけて下さい。

養生テープ

養生テープ等は、直接フローリングに貼らないで下さい。テープの接着剤が浸透して汚れや変色の原因になります。

施工

事前に根太のある部分に墨を入れておきます。一列目は長辺、短辺オン実部をカットして壁側に向けて左端から貼っていきます。壁側に中木で隠れる範囲で 5 mm 以上の隙間をつくります。

長辺方向に 150 mm 間隔で接着剤を塗布します。塗布しすぎないように注意して下さい。(サネには接着剤が付かない様に注意して下さい)

フロア釘は、メス実部から 45 度に打ち込みます。(捨て貼りから根太にかけ打ち込みます)この時、フロア釘の頭が出ないように注意します。もし出た場合はポンチ等を使って沈めます。一列目は中木で隠れる部分に上からフロア釘で止めます。

一列目の最後は、壁までの距離に隙間分(5mmくらい)をひいた長さでカットします。

カットした残りは基本、二列目の最初に使用します。

二列目も 150mm 間隔に接着剤を塗布してから、長尺部のサネを差し込み、短辺部(エンドマッチ)のサネを上から押しこんでめ込みます。それからメス実部に 45 度の角度で根太の印部にフロア釘を打ちこんでいきます。

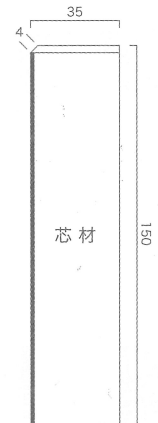
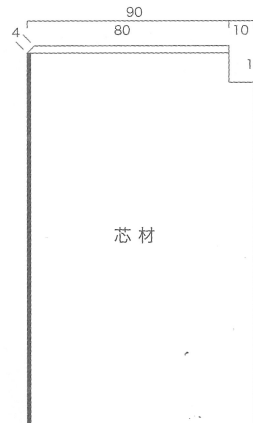
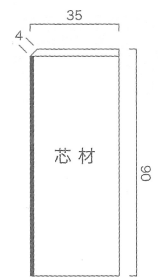
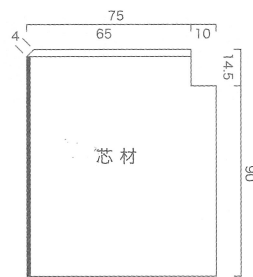
このように二列目以降も施工していきます。最終列は最初に割付した寸法に、壁との間に約 5mm 位の隙間(中木で隠れる範囲)を残せる様にカットします。それを上記と同じ要領ではめ込んでいきます。最終列も中木で隠れる部分に上からフロア釘で止めます。

□オプション材(受注生産品)

オプション材として、下記サイズの框見切りも取り揃えています。

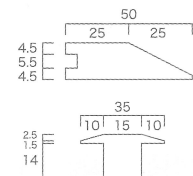
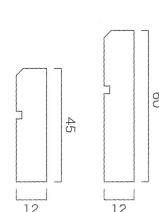
玄関框 単位:mm

巾木 単位:mm



付け框 単位:mm

見切り 単位:mm



□フローリング施工方法 (置床式)

～低温床暖房をご使用される場合～

1. 床下地が水平になっているか確認する。
2. 不陸調整、湿気調整のために下地マット(別売)を敷く。
3. 一列目の床材は、凸実部分を壁に向け、長手方向に向かい左から張り始めます。この時、クサビなどを利用して壁との間にクリアランス(隙間)をとっておきます。(床を張る部屋中1mに対して、1mm以上のクリアランスが必要)糊は必要に応じて、凹実上部に薄く長く塗布して下さい。
4. 一列目の最後は壁までの距離から、「3」でとったクリアランス距離分を引いた寸法でカットしたものを張って下さい。
5. 二列目のはじめは、一列目の最後にカットした残りの端材を使用します。
◎利用できる端材の長さは、約400mm以上を目安とします
6. 二列目以降は、長辺側を合わせた後に短辺側をあわせて、上から押さえてエンドマッチをはめ込みます。
※施工中の床の上には極力乗らないようにして下さい。
※8~10mごとに床見切りを使用して下さい。
7. 最後の列は、凹実部から残り寸法をカットし、軽くたたいて押し込んで下さい。
8. 床の施工が完了後、クサビを外してクリアランスをふさぐ様に中木を壁に貼ります。
9. 壁際は、反り等を考慮し、両面テープで固定することをお勧めします。